



# 教科書の言語活動に合わせたテストを

根岸 雅史 Negishi Masashi  
(東京外国語大学)

## 1. 温故知新 (?)

下の資料をご覧ください。どちらも *NEW CROWN English Series 3* (三省堂) であるが、左 (p.14) は昭和56年度版のまとめと練習、右 (p.15) は現行 (平成18年度) 版の USE IT のページである。

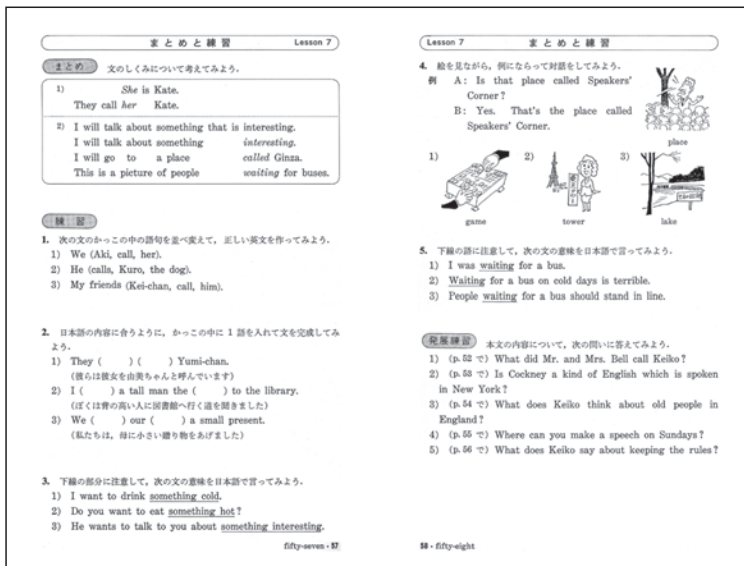
昭和56年度版の教科書は、本文ではアリスやケニアといったトピックを取り上げるなど、内容的にかなり先進的な教科書であったが、今回取り上げたいのは、本文の方ではなく、「練習」と USE IT である。見ていただくと分かるように、昭和56年度版の「練習」は、古色蒼然たる感じがする。並べ換えあり、空所補充あり、英文和訳あり、である。また、発展段階であっても、生徒の言うことは完全にコントロールされ、いわゆる「正解」は1つである。これに対して、現行版は、機械的な練習は本文下の

CHECK IT に任せ、USE IT は現実のコミュニケーションをなるべく反映しようとした、いわゆるオーセンティックなタスクとなっている。具体的に言えば、場面や状況を示す文脈があり、誰が誰に向かって話すのか、何を目的とした発話なのか、などが明確であり、また学習者ごとに表現することが異なる、オープン・エンドなものがほとんどである。

昭和56年度版から30年近くがたち、教科書の判型も大きくなったが、ページ割りもかなり変わっている。基本的なページ割りは、昭和56年度版では3年生で「本文」が5ページ、「練習」が2ページであるのに対して、現行版では「本文」が3ページ、「練習」が5ページ (DO IT や TRY を含む) と逆転している。ここから見えることは、昔は言語活動が教科書には載っていないために、教師があれこれ工夫して教えなければならなかったということである。別の言い方をすれば、言語活動の「しぼり(?)」

がなかったので、自由に教えていたとも言える。これに対して、現行版の方は、具体的な言語活動が載っており、教師はこれに従ってやればそれなりの授業ができるようになっている。ただし、教師の自由度は低く、創造的にやろうと思えば、教科書のできあいの活動を無視するしかない。

さて、昔の教科書の練習問題を見て気づくのは、それが今日の英語のテスト問題に酷似しているということだ。今日のテストが昔の教科書の練習問題を引



きずっていると言える。また、昔は、テストがそのまま教科書の練習問題になっていたとも言えるかもしれない。いずれにしても、昔は、教科書の練習問題とテスト問題の形式が似ていたので、テストでこの種の問題が出て、違和感はなかっただろう。

しかし、この状況を今日の生徒の側から考えてみるとどうだろうか。教科書には、かつてのような「練習問題」はなく、USE ITのような活動がある。となると、授業の中では、顔の見える相手と一生懸命コミュニケーション活動をやっているのである。にもかかわらず、テストとなると、授業中にはやったこともない「並べ換え問題」や「空所補充問題」などが出てくるのである。これらは、英語の教師にとってはおなじみでも、生徒からすると目新しいものである。他にも、これまでに私が調べた中学校の定期試験問題では、9割もの学校で和文英訳問題が出題されているが、現行の検定教科書の中で和文英訳を課している教科書は、おそらく存在しないだろう。

## 2. 解決の糸口

では、このようなねじれた関係をどう解きほぐしたらいいのだろうか。この答えは、単純に考えれば、教科書が言語活動型となった今、実際に生徒が教室でやっている活動をベースにテストを作るとい

うのが、もっとも整合性があるということになるのではないか。教師は、「英語のテスト」に関する固定概念があるために、テストは旧来のテストの形式を採用してしまう傾向があるが、指導目標との整合性を考えると、最終目標とする言語活動からテストを発想した方がいいだろう。

たとえば、下のUSE IT 4の1に対応するようなテストであれば、次のようなテストが可能となる。「あなたはこれから初対面の留学生に自己紹介をするので、そのためのメモを書いています。『得意なもの (easy)』『苦手なもの (difficult)』『やっていると楽しいもの (fun)』などについて、括弧内の英語を参考にして、英文のメモを書いてみよう。」これであれば、授業でやった活動がどのくらい定着しているのかを見ることができよう。

このような問題では、教室活動同様、「文脈」や「タスクの目的」などをテストの中にも含めることが重要である。上は、書くことのテストの例であるが、他技能のテストも、教室や教科書の言語活動を元に、より整合性のあるテストが可能となるだろう。ただし、現実生活のタスクでは、言語形式に関して絶対的なしぼりはないが、定期試験で、ある言語形式をターゲットにしたい場合は、ある程度の制限を加える必要があるかもしれない。

USE IT 4

**1 コンピュータはおもしろい!**

例にならって、fun, difficult, easy などを使ってそれぞれの欄についてあなた自身のことを書いてみよう。

It is fun for me to use a computer.

fun  
difficult  
easy

use a computer

write a letter

swim for one hour

cook tempura

LESSON 4

**3 幸せなときは?**

どんなときに幸せだと感じるか、①-④を参考にしながら例にならってあなたと対話してみよう。該当する人がいたら名前を[ ]に書いてみよう。また①-④以外の答えが思いついたら書いてみよう。

① Mike: Kenji, what makes you happy?  
Kenji: Well, speaking English makes me happy.

speaking English  
(Kenji)

sleeping

listening to music

reading books

②

THINK ABOUT IT

① このレッスンで学んだ単語を3つ書き出してみよう。

④ hope \_\_\_\_\_

② ①で学んだ単語を使って、本文を参考にしながら英文を書いて発表してみよう。

④ People remember Soddako's hope.

---

SOUNDS

次の文の中で、強く読む語を書き出してみよう。それらの語に注意しながら、文を読み込みよう。

The atomic bomb was dropped over Hiroshima.

It shows the terrible power of the bomb.

③ forty-three ④ forty-four

**2 5月は毎月**

君は5月を毎月と呼んでいました。毎月の日はどう呼んでいたのでしょうか。1-5の英語を聞いて、例にならって線で結んでみよう。

①	②	③	④	⑤
9月	3月	12月	5月	7月
文月	卯月	未月	辰月	寅月
September	May	March	April	July
thirty-three ③				